

新たな分科会とは？

What Is Newly Established “Bunkakai (Divisions of the IEIJ)”?

◀キーワード：分科会，主所属，副所属，選挙権，スキルアップ

◀KEYWORDS：academic divisions, main affiliation, sub affiliation, the suffrage, upgrading one's skills



専門会員 鎌田 憲彦
Norihiko Kamata

1955年生。1983年3月、東京大学大学院博士課程修了。工学博士。埼玉大学大学院理工学研究科にて、光物性、発光材料の定量評価、デバイス創製に関する研究に従事。著書『光物性・デバイス工学の基礎』ほか。

ABSTRACT

Eight academic divisions were established this year. It is expected that wider members of the IEIJ could join one of these divisions and upgrade one's skills through various activities. It is also urgent for the IEIJ to strengthen the activity, global correspondence and breed next generation by combining regional chapters and academic divisions. The aim, plan and schedule of these academic divisions are briefly introduced.

1. はじめに

創立95周年、新たな社団法人としてのスタートを切る記念すべき節目に、分科会の制度が始まった。これまでの研究専門部会と比べて分科会は何が違うのか、なぜ照明学会の会員一人一人が分科会に所属することが望まれるのか、分科会に入ると何ができるのか、逆に何をしなければならないのか…照明学会員各位にとって、まだまだ不明な点が多いように思われる。ここでは、分科会制度のあらましを、なるべくわかりやすく紹介したい。まずは照明学会員の熊さん、八さんと、長屋のご隠居との問答に耳を傾けていただきたい。

2. 分科会に関する長屋の Q and A

2.1 分科会への参加

熊さん「照明学会も新たに一般社団法人の認可を受けることになったようで…」

八さん「そのための組織変更，対応した定款や規則の変更，臨時総会での承認など，結構大変ですね。」

ご隠居「公益法人制度の改革によって，新たに一般社団法人か公益社団法人のどちらかに移行する必要がある，その期限が迫っているんだ。平たく言うと，新しい法人に移行しなければ，おとりつぶしになるってことだね。」

熊さん「そりゃ大変だね。ところで，照明学会の会員はどこかの分科会に入るようにと言われてるんですが，どうもピンとこないんですよ。なにしろ技術開発に携わっているわけでもないし…」

八さん「私は研究専門部会には入っていましたが，新しい分科会ってどう違うんでしょうか。」

ご隠居「専門家でも技術開発の業務でもないのに，分科会に入らないといけないのか？こうした疑問を持つ会員は確かに多いようだね。またこれは，なぜ新たな分科会の制度が必要なのかという問いかけにも繋がるんだ。この辺を簡単におさらいしてみよう。まず，これまでは研究専門部会*1と普及部があって，おのおのの専門領域で学術研究・調査・普及活動などを進めて来たんだ。」

熊さん「それを続ければいいじゃないですか。」

八さん「公開研究会やシンポジウムなど，興味深い催しがあって参加しましたよ。」

ご隠居「実際，各研究専門部会と普及部は，工夫しながら頑張って照明学会をこれまで支えて来た。だがね，問題がなかったわけでもないんだ。研究専門部会は平たく言えば専門家の集まりだ。専門家は限られるから，どうしても運営メンバーは固定しがちとなる。何年も運営メンバーが変わらないと，当面の運営は楽でも長期的にみると次の世代を育てることができない，また多くの会員にとっては敷居が高く，自分たちの意思を届けて実現することが難しいといった面も持ち合わせている。照明学会に限った話ではなく，どこでも若手学会員の確保，育成には苦慮している。」

八さん「確かに運営メンバーは大体同じ顔ぶれでしたね。」

熊さん「そうは言っても，専門家でないのに運営なんてできませんよ。」

ご隠居「この厳しいご時勢だ。企業はもちろんだが，大学でさえ若手の育成が難しくなっていると，大学の先生も嘆いているよ。分科会は専門家だけの集まりでは

*1 これまでは，光の発生・関連システム，光関連材料・デバイス，視覚，光環境，光放射の応用・関連計測の5研究専門部会があった。

なく、興味を持って勉強したいと望むより広範囲な同好の学会員同士の集まりだ。もちろん専門家も参画するが、なるべく風通しを良くし、次世代を担う若手、興味に応じてこれからスキルアップしたいと志す専門家ではない会員も、それぞれの立場で協力し、またサービスを受けられることを意図しているんだよ。学会員のもっと多くが学会活動に主体的に参加し、学会をより有効に利用できるよというの、今回の組織改革の眼目の1つでもあるからね。専門家だけの集団でなくなった以上、分科会活動に多くの会員の声を反映させる必要がある。そのためには、専門家ではない会員も運営に積極的に参画してほしいそうさ。」

八さん「興味を持っている学会員なら OK で、専門家でもなくても、技術開発・調査業務などに携わっていても全く問題ないですよ。」

熊さん「でも、資格とか何か必要では…」

ご隠居「照明学会の会員は、誰でも主所属として分科会1つに入ることができる。そのほかに、希望すればもう1つ別の分科会に副所属として入ることもできる。もちろん主所属の1つだけでも構わない。「希望調査」という言葉で誤解があったかもしれないが、調査した後に「審査」があるわけではなく、申請したとおりに主分科会1つ、さらに希望すれば副分科会1つに入ることができるんだよ。」

2.2 分科会への加入で会費は増えるか

熊さん「ところで、分科会に入ると支払う学会費は増えるんですって？」

八さん「それは最初に気になったのですが、増えないですよ。」

ご隠居「照明学会員であれば、主所属の分科会1つ、また副所属の分科会1つの合計2つまでを選ぶことができ、学会費が増えることはない。公開研究会などの催しには、参加の度に参加費（予稿集代を含む）を払うのはこれまでと同じなんだ。でも照明学会員以外の人が分科会活動だけに参画したい場合は、専属員として毎年会費を払うことになるんだよ。分科会に入るとは強制ではないが、逆に学会費を納めていて入らないのはもったいないことだ。学会活動に積極的にかわる意味からもぜひお勧めしたいね。」

2.3 どこに入るか、主所属と副所属

熊さん「困ったな…どんな分科会があって、どう選べいいんですかね。」

八さん「8つの分科会*2の中から、自分の興味で選ぶことになるんでしょうか。」

熊さん「でもね、似たような名前もあるし、領域もお互

いに重なっているし…」

ご隠居「照明学会としての学問領域、独自性、所属会員数の予測などから、今の分科会が決まったようだ。とは言え、どう分けたところでスパッと明確には行かないさ。このページの後に続く各分科会の紹介記事も参考になりそうだよ。」

八さん「なぜ主所属が1つ、副所属が1つに限定なんですか？どうせなら3つも4つも入りたいたいのに…」

熊さん「そうそう、私なんぞ全部に興味があるから照明学会に入っているのに…」

ご隠居「なかなか大した心意気だね。これまでの研究専門部会とは違って、分科会の幹事は選挙で選ばれる。照明学会員の権利として、その選挙権を皆が平等に行使するために、主所属の分科会は1つに限定なんだ。副所属については、選挙権はないが、そのほかは主所属の会員と区別がなく、同じく活動できる。」

熊さん「仕事上は〇〇分科会だが、個人的な興味は□□分科会だってえ、て人は多いかもしれないね。」

八さん「その場合はどちらかを主所属に、残りを副所属にすればいいんでしょうね。」

ご隠居「副所属については希望しなくてもいいんだが、もっとほかにも入りたいという意見ももっともだね。学会としても対応が大変なので、当面は主所属1、副所属は1までで普及を図りたいそうだが、今後分科会制度が定着したら、この辺は変わるかもしれない。ただし大事な点は、副所属を入れて2つの分科会に入っただとして、それ以外の分科会の企画にも自由に参加できるということなんだよ。分科会同士の連携・共催企画も推奨されている。そもそも照明学会の特徴は、さまざまな要素の融合にあるのだからね。だから当面、主所属1、副所属1の2分科会に限定と言っても、さして実害はないんじゃないだろうか。また、どこに入るか、あまり真剣に悩む必要はないことがこれで理解してもらえたかな？」

2.4 分科会の活動

熊さん「入ったとして、分科会は所属会員に何をしてくれるんで？」

ご隠居「厳しい質問だし、これが各分科会にとって最も重要な課題だね。最新技術に関する公開研究会やシンポジウムを企画・連絡し、実施することはもちろんだが、その際にも拡大した所属会員の要望に配慮して、若手や新たに勉強する会員が参加しやすい工夫を凝らす必要があるだろうね。そうした視点を企画段階から導入してくれる立場の幹事も必要となる。」

八さん「結構大変そうですね。それだけに、所属会員からの積極的な提言と協力が望まれるんでしょうね。」

ご隠居「そのとおり。分科会の体制が照明学会に根付くかどうかは、結局この辺にかかっていると見えそうさ

*2 分科会には光源・照明システム、固体光源、視覚・色・光環境、計測・標準、光放射応用、照明設計・デザイン、環境・エネルギー、照明普及の8つがある。

ね。」

2.5 分科会と支部との関係

八さん「支部との関係はどうなるんでしょうか」

ご隠居「会員は皆1つの支部に所属しているから、主所属の分科会が1つ決まれば、地域として1つの支部が「横糸」、分野として1つの分科会が「縦糸」という位置付けとなる。照明学会としては、これによって個々の学会員とのつながりがより強固となり、活動が活性化することを期待しているんだ。支部と分科会が連携すれば、例えば支部がお世話する全国大会などでの分科会シンポジウムや共催企画、また見学会・施設紹介を含めるとか、市民の方々を含めた企画なども増えるかもしれない。」

八さん「今回の全国大会では、一般講演や記念シンポ以外にも、分科会主催シンポ、ヤングウエーブフォーラム、松山城ライトアップツアーといった企画が揃いましたね。分科会ミーティングでも、色々な意見が出ました。」

ご隠居「意見交換はこれからも大事だよ。分科会と支部との連携と言っても、難しい面もあるだろうから、今後の検討課題の1つだね。積極的にアイデアを出してはどうだろうか。」

2.6 所属変更、区分見直し

熊さん「分科会の入会や所属変更は、いつでもできるようにすべきでしょ？」

八さん「そうそう、それから、分科会区分の見直しはあるのでしょうか？」

ご隠居「もっともな質問だね。分科会の発足初年度は、臨時総会を経て新法人制度移行の年でもある。また、中には運用細則の審議、決定も必要となる。現在学会を挙げて管理運用システムの準備が進められているが、まさに黒船来航！といった年のようだ。当面主1つと副1つの2分科会までとし、まずは離陸して定常飛行を目指したいとの話だ。とは言え、新法人に移行して事務局の管理システムが整い、分科会活動も定常化した後は、所属は随時変更が当然だ。また副所属を増やすかどうか、現在の8分科会を再編成するかなどに関しても、一定期間の実績を通して学会としての対応・修正を継続していくのは当然だね。結局のところ、会員の意向が分科会制度のこれからを決めることになることは間違いない。」

八さん「学会HPの連絡を見れば、動きがわかるということですね。」

熊さん「なるほど。難しいけれども、学会員の手で学会をより有効に活用するチャンスとも言えそうですね。」

ご隠居「そのとおり。」

3. 新たな分科会制度の意図

少々手前味噌の問答が続いたが、ここで改めて、分科会制度の立ち上げに至った背景とその意図を説明したい。ご存じのように、低炭素社会実現のために、照明の役割はますます大きくなり、LEDをはじめとする固体照明 (Solid State Lighting, 略称 SSL) が急速に普及しつつある。SSL が次世代の照明として正しく受け入れられ、その機能を発揮するためには、デバイスや器具開発だけでなく、視覚生理・心理、測光・測色、光環境、照明計画・デザイン、照明利用技術まで照明学全体で対応すること、すなわちほかの学協会と連携しつつも、照明学会が中心的な役割を担う必要がある (図1)。また、照明産業も従来とは異なった形態となり、グローバル化はますます進展し、ビジネスでの国境は消滅しつつある。照明学会としては、こうした動向を発展に結びつけるべく、活動を推進する必要がある。照明学会の責務はますます重大となっているのである。

こうした状況を受けて、照明学会は平成23年度重点項目 (表1) を定めているが、その筆頭として、分科会を軸にした学術団体としての基盤強化が位置付けられている。

4. 支部と分科会との連携を目指して

学術団体としての基盤強化を図るため、照明学会では、現代の照明学が網羅する専門的内容や、会員の分布予測に応じて、8つの分科会を設立した。各分科会の扱う内容の一例を表2に示す。

照明学会会員は、1つの支部、および1つの分科会に主所属員 (選挙権あり) として所属する。なお、希望によりもう1つの分科会に所属できる (副所属員: 選挙権はなし)。従来の支部組織を地域別の横糸とすると、新

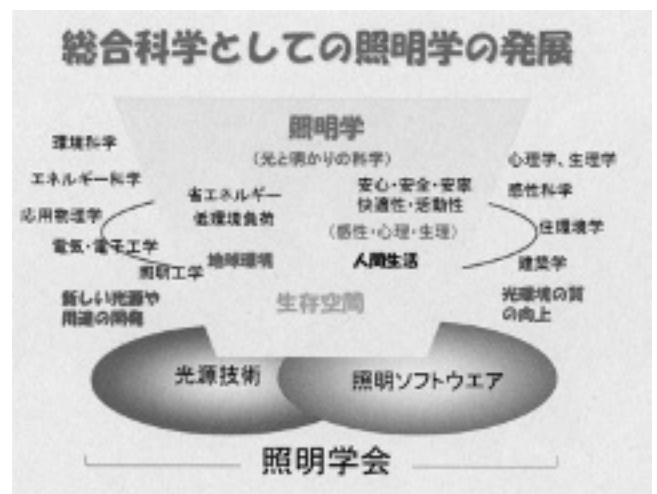


図1 総合科学としての照明学会の学問領域
Fig.1 Academic fields of Illuminating Engineering Institute of Japan as an interdisciplinary science.

表1 平成23年度重点項目

Table 1 Priority issues of the IEIJ in the fiscal year 2011.

1. 照明学会のプレゼンスの向上
 - (1) 分科会を軸とした学科団体としての基盤強化・会員参加型等「地域性」による機能的な強化・見える化(論文・成果発表の活性化、国際活動の活性化、若手研究者の育成)
 - (2) 団体業務に不可欠な本部職大・デバイスからソフト技術まで取り込んだ新しい照明学会の創成(研究会、奨励化)の強化・学協会、産業界との連携強化、支部活動への支援
 - (3) グローバル化を軸とした国際化(東アジアにおける照明技術交流の活性化、国内対への国際活動の活性化)
 - (4) 創立95周年記念事業の実施(学生会員推進キャンペーン、創立95周年記念シンポジウム等)
2. 新設公益法人移行の取り組み
 - (1) 一名社員法人(学研研)への移行(新設公益法人の明確化に適合した組織設計の具現化とセーフティネット体制の確立)
 - (2) 新設法人移行に合わせた「照明学会」の広報
3. 会員ニーズの把握と会員サービスの向上
 - (1) 会員ニーズに合った学習の学芸会成果
 - (2) ホームページ、メールマガジンの役割分担の明確化と充実化
 - (3) 役員(学生会員)拡大キャンペーンの実施
 - (4) 照明ビジネスのニーズに合わせた通関講習のカリキュラム
4. 本部運営の基盤強化
 - (1) 本部事務局の強化(重点課題の推進及び専任社員を擁持するための必要職と本部体制の強化)
 - (2) 本部事務局の強化(新設公益法人として、健全な収入に見合った経費削減と公益活動を行うための組織基盤の再構築(新設経営者)の強化)
5. 創立100周年に向けたビジョン及び使命の作成

新設公益法人としてのビジョンと、それに基づく中期経営計画の作成

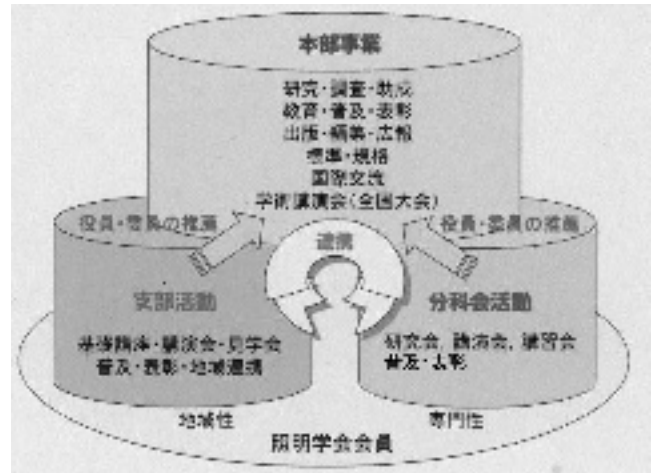


図3 支部と分科会の役割
Fig.3 The role of regional chapters and academic divisions in the IEIJ.

しく設立する分科会組織は専門別の縦系に例えられる(図2)。個々の会員がこの縦横の組織の両方に所属することによって、

- ・全国大会を始め、分科会が企画する種々の催しなどへの参加を通して
- ・学会との関係をより強めつつ、個々の啓発を図る
- ・各会員が学会運営に関わる機会の公平性や透明性(新法人法で明確化が求められている)の確保
- ・若手や非専門会員の学会としての育成が期待される(図3)。支部と分科会は、照明学会の活動を推進する車の両輪とすることになる。分科会側としては、

- ・企画する研究会、講習会、講演会などを通じた、自己啓発、研究調査活動の質と量の向上
- ・関連分科会間の連携による研究発表の促進、特別企画などを通じた全国大会や各種学会活動の活性化
- ・支部との連携による相互の活性化、新たな展開策
- ・役員や各種委員の選出において、専門性に応じた人材の公平で透明な推薦母体としての機能
- ・選挙で選出された幹事団による、会員の意向を反映した、円滑な運営と引き継ぎ

を実現することが求められている。繰り返しとなるが、分科会はこれまでの研究専門部会のような専門家集団ではない。より多くの学会員が自発的に集い、専門家はその立場で、また若手や非専門の会員も臆せずに関与に参加し、スキルアップを図る場である。相互に専門性を高めつつ、さらにすそ野を広げて学会活動を活性化させることを目指している。

さて、言うはやすいが、これは実際上容易ならざる目標であろう。その困難さを推し量ったうえで、照明学会として敢えて一步を踏み出したことになる。まだまだ準備が不足で至らない点は多々あるが、学会員各位のご協

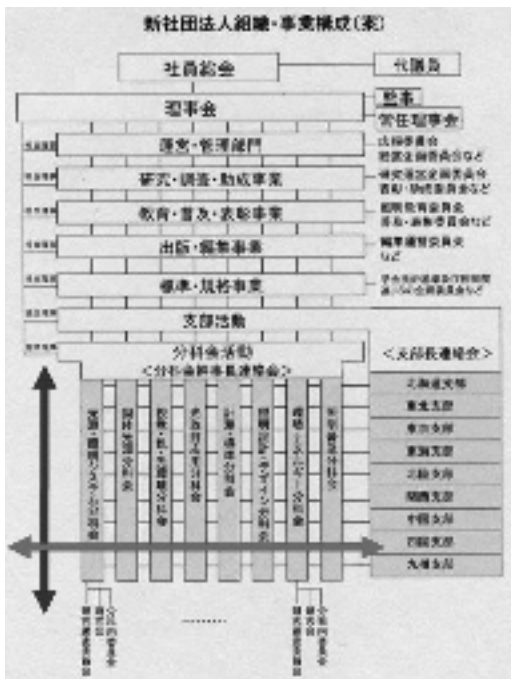


図2 新設公益法人の組織図における支部と分科会
Fig.2 Regional chapters and academic divisions in the organization chart of the new corporation.

力と、叱咤激励をお願いする次第である。

5. 分科会に関する今後の予定

5.1 分科会への加入募集

なるべく多くの会員に分科会に所属してほしいため、今年度は全国大会に先立ち、まず6月10日～8月19日までの期間で分科会所属の追加募集を実施した。しかしながら募集を受理するweb体制に不備があり、6月10日～7月25日間に申し込みをした方については、分科会への登録がなされずにデータが消去されてしまった。この点はただちに学会HPに記載したが、ご迷惑をおかけし大変申しわけなく、ここに重ねてお詫び申しあげる。大変恐縮ながら、該当の方には、再度webでの申込みをお願い申しあげる(図4)。

追加募集の期間は延長しており、学会HPに随時最新情報を記載している。

5.2 今年度の分科会活動

既に終了した公開研究会、全国大会企画を含め、各分科会で公開研究会、シンポジウムなどを企画、実施している。これらは分科会ネットワークや学会HPを通して通知される。

5.3 幹事選挙

臨時総会で承認された定款等の発効(平成24年4月)以降、幹事の半数が毎年改選される。立ち上げ期の今年度は各分科会の運用細則を定め、分科会ホームページなどを準備する必要があり、幹事団は留任の方向で検討している。次年度の幹事選挙に関しては、各分科会の運用細則に則り、照明学会ホームページ、分科会ホームページなどに案内が掲示されるのでご覧いただきたい。

6. おわりに

新たな一般社団法人への移行に合わせて、今年度発足

表2 各分科会の内容・キーワード例

Table 2 Examples of keywords for each division.

分科会名	内容・キーワードの例
光源・照明システム分科会	熱/光放射の理論と応用, 光源用材料(蛍光体, 電子放射源), プラズマ光源, 光源用回路, システムなど
固体光源分科会	固体発光材料(無機・有機半導体, 蛍光体)・光源技術(LED, LEDランプ, 有機EL)・照明システムなど
視覚・色・光環境分科会	視覚・色彩科学, 照明環境の評価(視認性, 安全性, 快適性など), 視覚環境の心理・生理効果など
光放射応用分科会	X線～真空紫外放射, 赤外・遠赤外放射の評価と応用, 生物, 生体・医療への光放射応用など
計測・標準分科会	測光・放射測定, LEDなど光源計測, 光学材料・測光要素の測定, 分光, 放射測定および光応用計測など
照明設計・デザイン分科会	照明に関する感性工学/科学, 照明設計の理論とシミュレーション, デザイン教育, 評価と顕彰など
環境・エネルギー分科会	照明システムの省エネ化, 電力ネットワーク, 照明と社会・地球環境, 光エネルギー応用技術など
照明普及分科会	照明に関する科学技術の普及, 教育支援, 照明技術/設計/デザインに関する評価と顕彰, 社会連携など

した分科会の制度について、その内容と意義を中心に概説してきた。重要なのは、これまでの研究専門部会が一言でいえば専門家の限られた集団であったのに対して、新たな分科会は普及活動を含めて、より広い同好の集団への拡大を意味する点である。これは、言葉を変えると、より多くの学会員がより密接に学会運営に参画すること、その過程を通して、学会自らが活動を活性化しつつ、若手やこれから専門の勉強を進める会員のスキルアップと育成を進めることができる仕組みを作ることができるかどうか、という問題に直面していることにほかならない。

これは言葉にするほど容易なことではなく、かなり困難な仕事であろう。限られたメンバーで何とか維持してきた活動を、より多くの会員を得て拡大するからには、会員各位の協力が不可欠である。実際に今年度は走りながら考える面が強く、これまでも会員各位の叱咤激励をいただきながら進んできた。最終的に、照明学会にとって望ましい分科会制度はどうあるべきか、さらに分科会が照明学会に根付くかどうか、これらは学会員各位の総意が決めることになる。今後とも、会員各位の建設的なご協力、ご支援、忌憚のない提言などを重ねてお願いしたい。

連絡先

埼玉大学大学院 理工学研究科
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

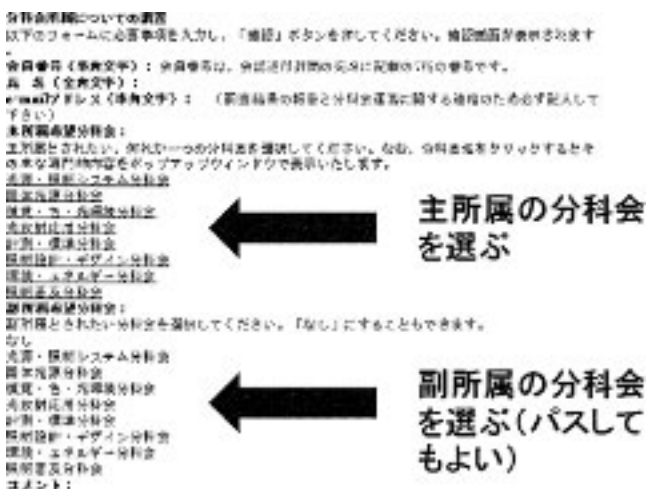


図4 分科会への申し込み画面

Fig.4 Web page of application to academic divisions of IEIJ.